

第174回 日本循環器学会東北地方会 (WEB開催)

プログラム

会 期: 令和4年6月4日(土) WEB開催

令和4年6月4日(土)9時~6月14日(火)17時オンデマンド配信

ライブ配信会場: 秋田市にぎわい交流館 AU

(秋田県秋田市中通1丁目4-1 TEL 018-853-1133)

第1会場: 3階 多目的ホール

第2会場: 4階 研修室1

第3会場: 4階 研修室2

会 長 渡 邊 博 之

事務局: 秋田大学 大学院医学系研究科 循環器内科学講座

秋田市本道一丁目1番1号

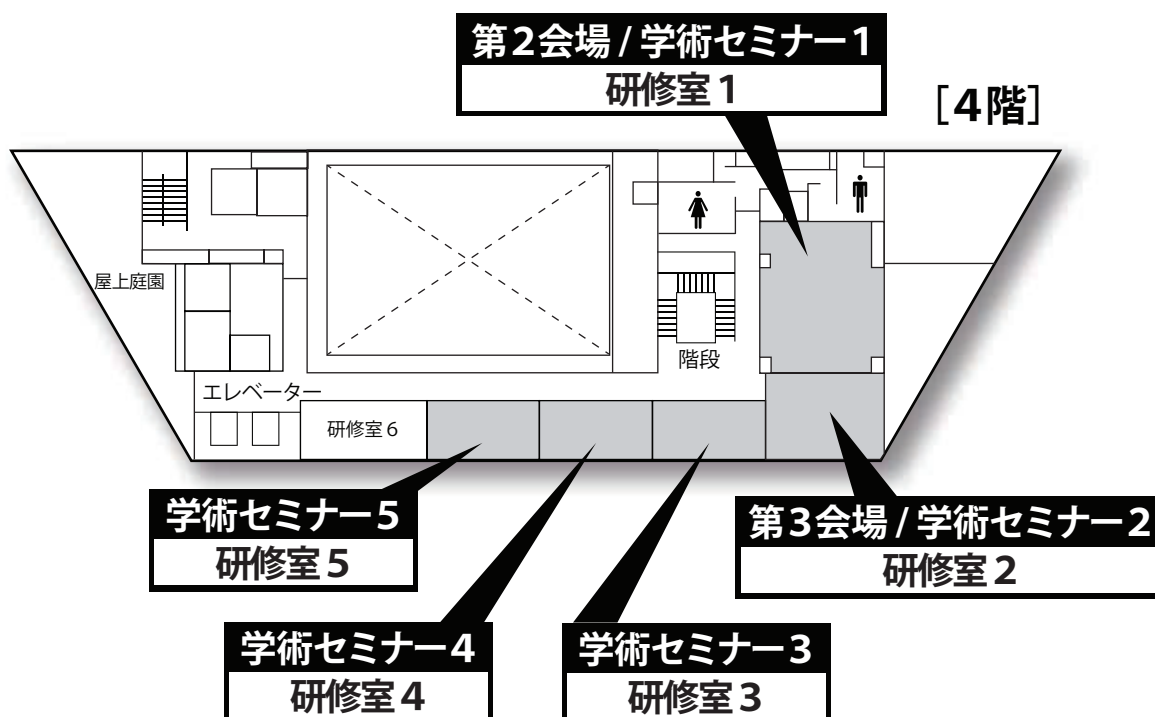
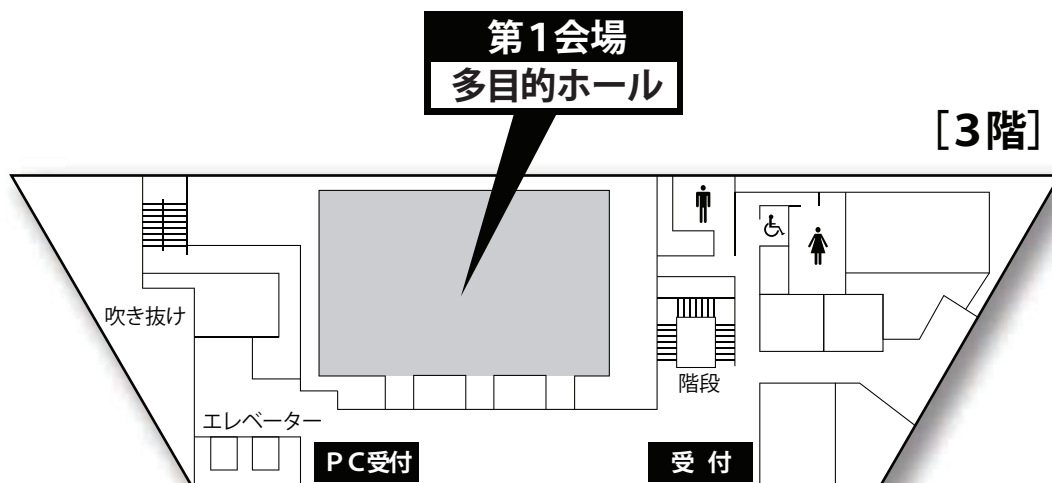
TEL 018-884-6110 FAX 018-836-2612

- 参加登録受付 令和4年4月27日(水)正午~6月14日(火)15時まで
日循地方会ページから参加登録が可能です。
オンライン参加登録いただいた際にご自身で設定されたメールアドレスと
パスワードがWEB閲覧用のIDとPWとなります。
※当日、会場での参加登録はできません。
- 会費及び支払方法 医師/その他 3,000円、コメディカル 1,000円、学生・初期研修医 無料
参加登録および会費納入は、オンラインでのクレジット決済のみといたします。
- 視聴方法と単位付与 WEB閲覧用IDとPWでログインしご視聴いただきます。
ライブ配信・オンデマンド配信のどちらかで視聴アクセス確認ができましたら、
学会参加の5単位を付与いたします。
教育セッション1・2両方の視聴アクセス確認で、3単位を付与いたします。
- 演題について
 - ◆オンデマンド配信◆
【一般演題】
発表時間5分(録画データ) 質疑応答なし ※一般演題は、動画の使用はできません。
 - ◆会場実施(ライブ配信+オンデマンド配信)◆
【YIA】発表時間7分 質疑応答5分 ※動画の使用は可能です。
【学生・初期研修医AWARD】発表時間7分(録画データ) 質疑応答5分
 - ◆ライブ配信のみ◆
【教育セッション】
【学術セミナー】

今回の東北地方会では、「医療安全・医療倫理に関する講演会」は実施致しません。
受講希望者は日本循環器学会会員ポータルサイトのe-Learningで受講いただきますようお願い申し上げます。

追記: 学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。

フロア案内図



プログラム

| | 第1会場ライブ | 第2会場ライブ | 第3会場 | オンデマンドチャンネル | 学術セミナーライブ |
|-------|---|--|--------------------------------------|--|---|
| | 3F 多目的ホール | 4F 研修室 1 | 4F 研修室 2 | | 学術セミナー |
| | Zoomを使用した ライブ配信 | Zoomを使用した ライブ配信 | | 期間内はオンデマンドで 視聴できます | Zoomを使用した ライブ配信 |
| | 8時～入館可能 | | | | |
| 9:00 | 8:50～ 開会あいさつ | | | | |
| | 9:00～10:00 1. YIA 症例発表部門 (1～5) 座長 渡邊 博之 (秋田大学) | 9:00～10:00 学生・初期研修医 AWARD 発表部門 (11～15) 座長 長谷川 仁志 (秋田大学) | | <公開期間> 6月7日9時～ 6月14日17時 1. YIA 症例発表部門 | 14:10～15:10 学術セミナー 1 座長: 渡邊 博之 (秋田大学) 演者: 齋藤 能彦 (奈良県立医科大学) 共催: 日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社 |
| 10:00 | 10:00～11:00 2. YIA 研究発表部門 (6～10) 座長 渡邊 博之 (秋田大学) | | 10:00～10:30 学生・初期研修医 AWARD 審査会 | 2. YIA 研究発表部門 3. 学生・初期研修医 AWARD | 14:10～15:10 学術セミナー 2 座長: 安田 聡 (東北大学) 演者: 高橋 尚彦 (大分大学) 共催: 第一三共株式会社 |
| 11:00 | | | 11:00～11:30 YIA 審査会 | <公開期間> 6月4日9時～ 6月14日17時 | 14:10～15:10 学術セミナー 3 座長: 竹石 恭知 (福島県立医科大学) 演者: 笹野 哲郎 (東京医科歯科大学) 共催: プリストル・マイヤーズ スカイプ株式会社 |
| 12:00 | 12:00～12:30 支部社員総会・評議員会 授賞式 | | 11:30～12:00 支部役員会 | 4. 一般演題 虚血性心疾患 (16～29) 心筋症・心筋炎・心内膜炎 (30～34) 不整脈 (35～50) 弁膜症 (51～56) 大動脈・末梢血管 (57～59) 肺循環 (60～63) 成人先天性心疾患 (64～66) その他 (67～70) | 14:10～15:10 学術セミナー 4 座長: 森野 禎浩 (岩手医科大学) 演者: 中村 一文 (岡山大学) 共催: ファイザー株式会社 |
| 13:00 | 12:30～13:15 教育セッション1 (成人先天性心疾患) 座長: 小丸 達也 (東北医科薬科大学) 演者: 赤木 禎治 (岡山大学) | | | | 14:10～15:10 学術セミナー 5 座長: 富田 泰史 (弘前大学) 演者: 中原 志朗 (獨協医科大学) 共催: バイエル薬品株式会社 |
| 14:00 | 13:15～14:00 教育セッション2 (基礎研究) 座長: 渡辺 昌文 (山形大学) 演者: 久場 敬司 (秋田大学) | | | | |
| 15:00 | | | | | |

第1会場 ライブチャンネル

1. YIA 症例発表部門 (ライブ配信) 6月4日 (土) 9:00 ~ 10:00

座長: 秋田大学 渡邊 博之

01 ワクチン未接種者に発症した SARS-CoV-2 オミクロン株(BA.2 型)による COVID-19 関連劇症型心筋炎の一例

¹ 福島県立医科大学 循環器内科学講座、² 公立相馬総合病院 循環器科
○市村 祥平¹、及川 雅啓¹、池田 彩乃¹、遠藤圭一郎¹、武藤 雄紀¹、
赤間 浄¹、八巻 尚洋¹、中里 和彦¹、佐藤 雅彦²、石田 隆史¹、
竹石 恭知¹

02 急性心筋炎に微小血管狭心症を合併し、慢性期にその緩解を認めた 10 代男性

¹ 東北大学病院 循環器内科、² 東北大学病院 病理部
○青田 宏人¹、鈴木 秀明¹、國吉 真平²、高橋 潤¹、安田 聡¹

03 広範な心筋脱落を認めた劇症型巨細胞性心筋炎の一例

¹ 山形大学医学部附属病院 第一内科、² 山形大学医学部附属病院 病理診断学講座
○山口 竜平¹、和根崎真大¹、高畑 葵¹、橋本 直明¹、大瀧陽一郎¹、
沓澤 大輔¹、加藤 重彦¹、田村 晴俊¹、西山 悟史¹、有本 貴範¹、
高橋 大¹、渡邊 哲¹、北岡 匠²、二口 充²、渡辺 昌文¹

04 多発性脳動脈瘤を合併した再発性心臓原発腫瘍の一例

¹ 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座、
² 秋田大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学講座
○安部 誓也¹、佐藤 輝紀¹、楡井 周作¹、大高 麻子¹、須藤 佑太¹、
高木 祐介¹、山浦 玄武²、山本 浩史²、渡邊 博之¹

05 一酸化炭素中毒により急性心筋梗塞に至った重症三枝病変の一例

弘前大学医学部附属病院 循環器腎臓内科
○加藤 和史、市川 博章、對馬 迪子、妹尾麻衣子、西崎 史恵、渋谷 修司、
花田 賢二、横山 公章、横田 貴志、富田 泰史

第1会場 ライブチャンネル

2. YIA 研究発表部門（ライブ配信） 6月4日（土）10:00～11:00

座長：秋田大学 渡邊 博之

06 QRS 幅 $120 \leq < 150$ の比較的狭い症例における心臓再同期療法の有効性予測因子に関する多施設共同研究

東北大学病院 循環器内科

○山本 惟彦、中野 誠、千葉 貴彦、長谷部雄飛、野田 崇、安田 聡

07 慢性心不全患者における弾性ストッキングの効果

¹ 岩手医科大学医学部内科学講座循環器内科分野、

² 岩手医科大学医師薬総合研究所生体情報解析部門、

³ 東邦大学医療センター 大森病院 循環器内科、

⁴ 兵庫県立淡路医療センター 循環器内科

○那須 崇人^{1,2}、松本 新吾³、藤本 恒⁴、森野 禎浩¹

08 CT による冠動脈石灰化評価は心電図非同期撮像でも心血管イベント発生を予測し得るか？

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○若木 富貴、高木 祐介、加藤 僚祐、小野 優斗、須藤 佑太、渡邊 博之

09 PRAETORIAN score を用いて術直後に S-ICD 植込み位置の最適性を予見できるか：術後臥位像と従来法の比較検討

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座

○山崎 堅、佐々木真吾、石田 祐司、濱浦 奨悟、外山 佑一、西崎 公貴、金城 貴彦、伊藤 太平、木村 正臣、富田 泰史

10 長時間心電図記録および不整脈検出におけるシャツ型電極の有用性

¹ 福島県立医科大学 循環器内科学講座、

² 福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科、

³ 福島県立医科大学 医学部 心臓調律制御医学講座

○天海 一明¹、山田 慎哉¹、義久 精臣^{1,2}、根橋 健¹、野寺 穰¹、金城 貴士^{1,3}、三阪 智史¹、竹石 恭知¹

第1会場 ライブチャンネル

3. 教育セッション1 (成人先天性心疾患)

(ライブ配信) 6月4日(土) 12:30～13:15

座長: 東北医科薬科大学 小丸 達也 先生

「循環器内科医が知っておくべき成人先天性心疾患のエッセンス」

岡山大学 赤木 禎治 先生

4. 教育セッション2 (基礎研究)

(ライブ配信) 6月4日(土) 13:15～14:00

座長: 山形大学 渡辺 昌文 先生

「心不全におけるRNA制御メカニズム」

秋田大学 久場 敬司 先生

第2会場 ライブチャンネル

学生・初期研修医 AWARD (ライブ配信)

座長：秋田大学 長谷川仁志

- 11 女性 HFpEF 患者においてアルブミン/グロブリン比低値は予後不良を予測する
¹ 山形大学 医学部 医学科、² 山形大学 医学部 内科学第一講座、
³ 山形大学 医学部 先進心血管治療学講座
○清水 万莉¹、大瀧陽一郎³、渡邊 哲²、立花 紳吾²、佐藤 淳耶²、
小林 祐太²、齋藤 悠司²、青野 智典²、田村 晴俊²、加藤 重彦²、
西山 悟史²、高橋 大³、有本 貴範²、渡辺 昌文²
- 12 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により惹起された ACS の 1 例
仙台徳洲会病院 循環器内科
○北原 真理、小池 達也、上川 雄士、福本 優作
- 13 心電図変化を伴わなかったたこつぼ型心筋症 basal type の 1 例
¹ 星総合病院、² 福島県立医科大学病院、³ 公立小野町地方総合病院
○小針 大輝¹、大河内 諭¹、片平 正隆²、佐久間裕也²、國分 知樹¹、
佐藤 彰彦²、松井 佑子¹、坂本 圭司¹、清野 義胤³、三橋 武司¹、
木島 幹博¹
- 14 整形外科手術中に肺血栓塞栓症を発症し経皮的心肺補助装置と血栓吸引により循環動態の改善を得た一例
¹ 岩手県立中央病院 初期臨床研修医、² 岩手県立中央病院 循環器内科
○千田 喜子¹、三浦 正暢²、船木 崇裕²、澤田 駿²、内村 久美²、
薄田 海²、加賀谷裕太²、佐藤謙二郎²、齋藤 大樹²、金澤 正範²、
近藤 正輝²、遠藤 秀晃²、中村 明浩²
- 15 動悸発作時に失神をきたす発作性心房細動のアブレーション時、失神の原因が併存した発作性上室性頻拍
¹ 市立秋田総合病院、² 秋田大学医学系研究科 循環器内科学
○河村 七彩¹、加藤 僚祐¹、藤原美貴子¹、藤原理佐子¹、柴原 徹¹、
藤原 敏弥¹、阿部 芳久¹、渡邊 博之²

学術セミナー ライブチャンネル

学術セミナー 1 (ライブ配信) 6月4日(土) 14:10～15:10

座長：秋田大学 渡邊 博之 先生

「心不全パンデミック時代に求められる心不全治療とは？」

～ EMPEROR-Preserved 試験の結果から考える～

奈良県立医科大学 斎藤 能彦 先生

共催：第174回日本循環器学会東北地方会
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

学術セミナー 2 (ライブ配信) 6月4日(土) 14:10～15:10

座長：東北大学 安田 聡 先生

「心房細動アブレーション最近の話題 —心外膜脂肪と周術期抗凝固療法—」

大分大学 高橋 尚彦 先生

共催：第174回日本循環器学会東北地方会
第一三共株式会社

学術セミナー 3 (ライブ配信) 6月4日(土) 14:10～15:10

座長：福島県立医科大学 竹石 恭知 先生

「心房細動が合併症を起こすメカニズムと、早期発見の重要性」

東京医科歯科大学 笹野 哲郎 先生

共催：第174回日本循環器学会東北地方会
ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

学術セミナー 4 (ライブ配信) 6月4日(土) 14:10～15:10

座長：岩手医科大学 森野 禎浩 先生

「心アミロイドーシスの診断と治療 —二次性心筋症の鑑別を含めて—」

岡山大学 中村 一文 先生

共催：第174回日本循環器学会東北地方会
ファイザー株式会社

学術セミナー 5 (ライブ配信) 6月4日(土) 14:10～15:10

座長：弘前大学 富田 泰史 先生

「心房細動バルーン治療の最新トピックス ～新・三種の神器を使いこなす～」

獨協医科大学 中原 志朗 先生

共催：第174回日本循環器学会東北地方会
バイエル薬品株式会社

オンデマンドチャンネル 一般演題

虚血性心疾患

- 16 当院におけるがん罹患歴を有する心筋梗塞症例の生命予後
仙台市医療センター仙台オープン病院 循環器内科
○浪打 成人、砂村慎一郎、谷田 篤史、尾形 剛、野田 一樹、瀧井 暢
- 17 急性下壁心筋梗塞発症後に心室中隔穿孔が遅発性に増悪したが待機的手術にて救命し得た一例
¹ 仙台厚生病院 循環器内科、² 仙台厚生病院 心臓血管外科
○佐々木裕哉¹、杉村 和宣¹、畑 正樹²
- 18 急性下壁心筋梗塞に合併し、心室中隔穿孔閉鎖術にて救命しえた複雑型心室中隔破裂の一例
¹ 福島県立医科大学会津医療センター 循環器内科、² 竹田総合病院 心臓血管外科
○玉澤 歌菜¹、星野 弘尊¹、菅井 義尚¹、玉川 和亮¹、鶴谷 善夫¹、川島 大²、岡野 龍威²
- 19 スタチン不耐急性心筋梗塞例に PCSK-9 阻害薬単独投与が有効であった一例
¹ 弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座、
² 国立病院機構 弘前総合医療センター 循環器内科、
³ 弘前大学大学院医学研究科 救急災害医学講座
○和島 将太¹、木村 嘉宏²、對馬 迪子¹、妹尾麻衣子¹、市川 博章¹、西崎 史恵¹、澁谷 修司¹、横山 公章¹、横田 貴志³、富田 泰史¹
- 20 高安動脈炎に合併した左冠動脈入口部を責任病変とする急性心筋梗塞の一例
福島県立医科大学 循環器内科学講座
○笠原 慎也、佐藤 彰彦、上田 捷太、大橋 尚人、和田 健斗、佐藤 崇匡、八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知
- 21 再破裂をきたした梗塞後心破裂の1例
秋田大学大学院 医学系研究科 循環器内科学講座
○高橋 潤、加藤 宗、鈴木 真由、須藤 佑太、佐藤 和奏、佐藤 輝紀、高木 祐介、渡邊 博之
- 22 線維筋性異形成による冠動脈高度狭窄病変に対し経皮的冠動脈形成術を施行した腎血管性高血圧症の一例
福島県立医科大学 循環器内科学講座
○草野 亮太、清水 竹史、佐久間裕也、大原妃美佳、小林 淳、八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知
- 23 たこつぼ型心筋症が疑われた冠攣縮による心筋梗塞の一例
¹ 市立秋田総合病院、² 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座
○加藤 僚祐¹、柴原 徹¹、藤原 敏弥¹、藤原理佐子¹、藤原美貴子¹、阿部 芳久¹、渡邊 博之²

- 24 同一手技で留置した異なる第一世代薬剤溶出性ステントが慢性期に冠動脈瘤形成と高度狭窄を呈した1例
公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院
○今井朝太郎、瀧井 暢、野田 一樹、尾形 剛、砂村慎一郎、谷田 篤史、小野寺健太、浪打 成人
- 25 右冠動脈を責任病変とする亜急性心筋梗塞後の心室中隔穿孔でパッチ閉鎖術を施行し、救命し得た一例
秋田大学大学院 医学系研究科 循環器内科学講座
○石井 啓吾、田代 晴生、小野 優斗、仙場 志保、鈴木 智人、渡邊 博之
- 26 光干渉断層法ガイド下の PCI 中に治療抵抗性冠攣縮が誘発され心停止した 1 例
東北大学 循環器内科学
○神戸 茂雄、大山 宗馬、進藤 智彦、西宮 健介、羽尾 清貴、白戸 崇、高橋 潤、安田 聡
- 27 ST 上昇型急性心筋梗塞と心原性脳塞栓症を同時発症し PCI および血栓回収療法を施行した一例
¹岩手県立久慈病院 循環器内科、²岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野
○森 皓太郎¹、長 捺希²、那須 崇人²、田口 裕哉²、坂本 翼²、高橋 祐司²、木村 琢巳²、森野 禎浩²
- 28 心室中隔穿孔術前における機械的補助循環（MCS）の適切な選択と至適待機期間の検討
秋田大学医学部附属病院 心臓血管外科
○山崎 友也、高木 大地、角浜 孝行、山浦 玄武、田中 郁信、桐生健太郎、板垣 吉典、荒井 岳史、和田 卓也、五十嵐 至、五十嵐 亘、山本 浩史
- 29 FFR の低下した特発性冠動脈解離症例に対して、保存的加療を行った一例
みやぎ県南中核病院 循環器内科
○玉那覇有亮、高橋 亮吉、小松 茉由、武内 広樹、井汲 陽祐、田中 修平、伊藤 愛剛、塩入 裕樹、富岡 智子

オンデマンドチャンネル 一般演題

心筋症・心筋炎・心内膜炎

30 原発性胆汁性胆管炎に合併した好酸球性心筋炎の一例

¹ 寿泉堂総合病院 研修医、² 寿泉堂総合病院 循環器内科
○廣澤 茜¹、水上 浩行²、西浦 司人²、谷川 俊了²

31 腎梗塞により判明し、緊急で左室内血栓除去を行った若年男性の非虚血性心筋症の一例 弘前大学医学部附属病院 循環器腎臓内科学講座

○梅崎 仁志、西崎 史恵、對馬 迪子、妹尾麻衣子、市川 博章、木村 嘉宏、
花田 賢二、澁谷 修司、横山 公章、横田 貴志、富田 泰史

32 ATTR 型心アミロイドーシスを疑い、^{99m}Tc ピロリン酸心筋シンチグラフィを施行した症例 の検討

¹ 市立秋田総合病院 卒後臨床研修センター、² 市立秋田総合病院 循環器内科、
³ 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学
○高橋るしあ¹、柴原 徹²、加藤 遼佑²、藤原美貴子²、藤原理佐子²、
藤原 敏弥²、阿部 芳久²、渡邊 博之³

33 緩徐な経過を辿った Abiotrophia defectiva による感染性心内膜炎の一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座
○西浦 司人、阿部 諭史、佐久間裕也、菅原由紀子、清水 竹史、及川 雅啓、
小林 淳、八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知

34 AVR + CABG 術後に M. abscessus による IE を合併し再手術を余儀なくされた一例

¹ 岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野、
² 岩手医科大学 心臓血管外科学講座
○沼畑 亘¹、佐々木健太¹、永田 恭平¹、上田 寛修¹、肥田 頼彦¹、下田 祐大¹、
金 一²、森野 禎浩¹

オンデマンドチャンネル 一般演題

不整脈

- 35 左室収縮能が保たれた陳旧性心筋梗塞で着用型除細動器使用が有用であった一例
仙台厚生病院 循環器内科
○杉村 和宣、小野寺康介、山下賢之介、多田 憲生
- 36 Bystander concealed nodo bypass tract を有する房室結節リエントリー頻拍の1例
仙台市立病院 循環器内科
○鈴木 啓資、鈴木 舞、諸沢 薦、中潟 寛、青木 恒介、佐藤 英二、
山科 順裕、宮下 武彦、三引 義明、石田 明彦、八木 哲夫
- 37 心房頻拍から心室細動を来し、房室結節アブレーションが有効であった肥大型心筋症の一例
仙台循環器病センター 循環器内科
○時岡紗由理、宮澤 聡、田中 直之、植松 庄子、小林 弘、藤井 真也、
八木 勝宏
- 38 著明な右房拡大、三尖弁逆流を認め、AAI で恒久的ペースメーカー植え込み術を施行した洞不全症候群の1例
星総合病院 循環器内科
○片平 正隆、三橋 武司、佐藤勇太郎、大河内 諭、君島 勇輔、國分 知樹、
中村 裕一、松井 佑子、坂本 圭司、渡辺 直彦、木島 幹博
- 39 急性心筋梗塞後のアミオダロン抵抗性心室頻拍ストームに対してリドカイン持続静注が有効であった一例
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座
○外山 佑一、伊藤 太平、木村 正臣、石田 祐司、西崎 公貴、對馬 迪子、横
田 貴志、金城 貴彦、佐々木真吾、富田 泰史
- 40 持続性心房細動に対する PVI 後に左房前壁を巡回する心房頻拍が誘発され、前壁ラインの焼灼が奏功した1例
¹東北医科薬科大学 循環器内科、²仙台市医療センター 仙台オープン病院
○野田 一樹^{1,2}、熊谷 浩司¹、佐藤 司¹、黒瀬 裕樹¹、長谷川 薫¹、
住吉 剛忠¹、菊田 寿¹、関口 祐子¹、亀山 剛義¹、山家 実¹、
福井 重文¹、中野 陽夫¹、波打 成人²、小丸 達也¹
- 41 除細動テスト時の横隔膜筋痙攣により不適切センシングをきたした皮下植込み型除細動器植込み後の一例
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座
○濱浦 奨悟、石田 祐司、佐々木真吾、外山 佑一、西崎 公貴、金城 貴彦、
伊藤 太平、木村 正臣、富田 泰史

- 42 脳深部刺激を停止し、深鎮静下に遅伝導路アブレーションを施行し得た振戦優位型パーキンソン病患者の一例
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座
○廣澤 瞬、西崎 公貴、伊藤 太平、外山 佑一、金城 貴彦、石田 祐司、木村 正臣、佐々木真吾、富田 泰史
- 43 器質的心疾患を認めない心室頻拍に対して心外膜アプローチによる高周波アブレーションが奏功した1例
東北医科薬科大学 循環器内科
○佐藤 司、熊谷 浩司、黒瀬 裕樹、長谷川 薫、住吉 剛忠、菊田 寿、関口 祐子、亀山 剛義、山家 実、福井 重文、中野 陽夫、小丸 達也
- 44 左室前乳頭筋起源の心室期外収縮に対してカテーテルアブレーションが有効だった心サルコイドーシスの一例
東北大学 循環器内科学
○長谷部雄飛、山本 惟彦、佐藤 宏行、千葉 貴彦、中野 誠、野田 崇、安田 聡
- 45 CARTO-SOUNDとAIV電極カテーテルの使用が有用であった大動脈二尖弁のSummit-PVCの1例
大崎市民病院 循環器科
○濱口 保礼、佐竹 洋之、山中 真一、田中 俊次、辻 薫菜子、山内 毅、圓谷 隆治、竹内 雅治、岩淵 薫
- 46 治療に難渋したPurkinje関連VTの一例
岩手県立中央病院 循環器内科
○加賀谷裕太、近藤 正輝、船木 崇裕、澤田 駿、薄田 海、小丸 航平、安齋 潤、齊藤 大樹、佐藤謙二郎、金澤 正範、三浦 正暢、遠藤 秀晃、中村 明浩
- 47 カテーテルアブレーションにより著明なリバーズリモデリングを認めた心房細動合併心不全の一例
¹山形大学 医学部 卒後臨床研修センター、²山形大学 医学部 内科学第一講座
○渡部 尚輝¹、渡部 賢²、橋本 直明²、和根崎真大²、大瀧陽一郎²、沓澤 大輔²、田村 晴俊²、加藤 重彦²、西山 悟史²、有本 貴範²、渡邊 哲²、渡辺 昌文²
- 48 当院におけるBrugada症候群の検討
大崎市民病院 本院診療部 循環器内科
○田中 俊次、圓谷 隆治、山中 真一、辻 薫菜子、山内 毅、佐竹 洋之、竹内 雅治、岩淵 薫

49 カテーテルアブレーションおよび外科的手術にて治療し得た Electrical storm の一例

¹ 岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野、

² 岩手医科大学 心臓血管外科学講座

○漆久保 敬¹、佐々木弘揮¹、澤 陽平¹、芳沢 礼祐¹、大和田真玄¹、
金 一²、森野 禎浩¹

50 当院における高齢者での抗凝固療法の現状

みやぎ県南中核病院循環器内科

○小松 茉由、伊藤 愛剛、玉那覇有亮、武内 広樹、高橋 亮吉、井汲 陽祐、
田中 修平、塩入 裕樹、富岡 智子

オンデマンドチャンネル 一般演題

弁膜症

- 51 Hemodynamic collapse after percutaneous transvenous mitral commissurotomy due to “dual shunts”
仙台厚生病院 循環器内科
○杉村 和宣、中嶋 正貴、桜井 美恵、多田 憲生
- 52 収縮性心膜炎との鑑別を要した重症三尖弁閉鎖不全症の1例
仙台市立病院 循環器内科
○阿部 拓斗、鈴木 啓資、鈴木 舞、諸沢 薦、中潟 寛、青木 恒介、佐藤 英二、山科 順裕、宮下 武彦、三引 義明、石田 明彦、八木 哲夫
- 53 緊急 TAVI で救命した重症心不全を伴う二尖弁大動脈弁狭窄症の若年例
秋田大学大学院 医学系研究科 循環器内科学講座
○須藤 佑太、高木 祐介、岩川 英弘、佐藤 和奏、佐藤 輝紀、関 勝仁、鈴木 智人、寺田 健、渡邊 博之
- 54 Evolut PRO +の弁周囲逆流に対する経カテーテル人工弁周囲逆流閉鎖術の一例
¹ 秋田大学医学部附属病院 循環器内科、² 仙台厚生病院 循環器内科
○高木 祐介¹、多田 憲生²、佐藤 和奏¹、須藤 佑太¹、加藤 宗¹、高橋 潤¹、佐藤 輝紀¹、渡邊 博之¹
- 55 右肺動脈欠損症に伴う肺高血圧症を合併した重症大動脈狭窄症に対し経カテーテル大動脈弁置換術を行った1例
東北大学 循環器内科
○安齋 潤、羽尾 清貴、後岡広太郎、勝田 祐子、大山 宗馬、進藤 智彦、神戸 茂雄、西宮 健介、白戸 崇、高橋 潤、安田 聡
- 56 TAVI 導入の初期成績
東北医科薬科大学 内科学第一（循環器内科）
○亀山 剛義、菊田 寿、中野 陽夫、佐藤 司、黒瀬 裕樹、長谷川 薫、住吉 剛忠、関口 祐子、福井 重文、山家 実、熊谷 浩司、小丸 達也

オンデマンドチャンネル 一般演題

大動脈・末梢血管

57 診断に苦慮した Stanford A 型逆行性大動脈解離の一例

¹ 岩手医科大学 循環器内科、² 八戸赤十字病院 循環器内科、

³ 岩手医科大学 心臓血管外科

○登坂 憲吾¹、沼畑 亘^{1,2}、金濱 望^{1,2}、内村 洋平^{1,2}、
齋藤 大樹³、新山 正展^{1,2}、金 一³、森野 禎浩¹

58 腹痛で判明した EVT 後腹壁血腫の一例

大曲厚生医療センター

○高橋陽一郎、鵜沼 真由、小野 優斗、田村 善一

59 外傷性腹部大動脈損傷に伴う右総腸骨動脈閉塞に対し経皮的血管形成術を施行した一例

太田総合病院附属太田西ノ内病院 循環器内科

○伊藤 百花、室田 定洋、大橋 尚人、安齋 文弥、肱岡奈保子、金澤 晃子、
石田 悟朗、神山 美之、小松 宣夫

オンデマンドチャンネル 一般演題

肺循環

- 60 小児期放射線治療後遠隔期に右室流出路狭窄を呈した放射線誘発性心臓病の1例
秋田大学 医学部附属病院 心臓血管外科
○五十嵐 至、角浜 孝行、高木 大地、桐生健太郎、山浦 玄武、田中 郁信、
板垣 吉典、荒井 岳史、和田 卓也、山崎 友也、五十嵐 亘、山本 浩史
- 61 Arterial thrombi は、肺静脈中で伸長し、左房内に達する。心臓 CT が評価に有用である。
たけうち内科クリニック
○竹内 秀和
- 62 高安動脈炎に伴う重症肺高血圧症に対して、免疫抑制療法とバルーン肺動脈形成術の併用治療が奏功した一例
東北医科薬科大学 循環器内科学
○福井 重文、中野 陽夫、佐藤 司、黒瀬 裕樹、長谷川 薫、菊田 寿、
住吉 剛忠、関口 祐子、亀山 剛義、山家 実、熊谷 浩司、小丸 達也
- 63 月経時出血のため繰り返し生じた DIC による微小血栓が慢性血栓塞栓性肺高血圧症を引き起こした一例
秋田大学医学部附属病院 循環器内科
○柳澤 和哉、関 勝仁、久米 祐美、関 みちる、加澤 隆康、安部 誓也、
貝森 亮太、須藤 佑太、渡邊 博之

オンデマンドチャンネル 一般演題

成人先天性心疾患

64 複数の画像検査で診断された先天性左室憩室症の1例

¹ 市立秋田総合病院 循環器内科、

² 秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻、機能展開医学系 循環器内科学

○塩谷 郁美¹、藤原理佐子¹、柴原 徹¹、加藤 僚祐¹、藤原美貴子¹、
藤原 敏弥¹、阿部 芳久¹、渡邊 博之²

65 Fontan 術後の左肺動静脈瘻に対し責任末梢肺動脈塞栓により酸素化の改善を認めた1例

岩手医科大学附属病院 循環器内科

○沼崎 大諄、上田 寛修、高橋 信、森野 禎浩

66 巨大冠動脈瘤を伴う冠動脈肺動脈瘻の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座

○貝森 亮太、岩川 英弘、鈴木 暢容、青川 麻子、渡邊 博之

オンデマンドチャンネル 一般演題

その他

- 67 血栓性閉塞により急性心筋梗塞を発症した IgG4 関連疾患の一例
青森県立中央病院 循環器内科
○米倉 学、櫛引 基、鈴木 晃子、舘山 俊太
- 68 加速型 - 悪性高血圧症の一例
東北医科薬科大学 内科学第一 循環器内科
○山家 実、長谷川 薫、菊田 寿、亀山 剛義、関口 祐子、福井 重文、
中野 陽夫、熊谷 浩司、小丸 達也
- 69 PCI 直後の胃壁動脈出血により心肺停止に至った症例
秋田大学医学部附属病院
○関 みちる、関 勝仁、久米 佑美、柳澤 和哉、加澤 隆康、須藤 佑太、
渡邊 博之
- 70 COVID-19 患者の急変対応を盛り込んだ ICLS コース開催の効果
JA 秋田厚生連 北秋田市民病院 循環器内科
○佐藤 誠、加澤 隆康

審査会・会議

学生・初期研修医 AWARD 審査会 10:00～10:30 (第3会場 4F 研修室 1-2) (web 審査)

YIA 審査会 11:00～11:30 (第3会場 4F 研修室 1-2)

支部役員会 11:30～12:00 (第3会場 4F 研修室 1-2)

支部社員総会・評議員会 12:00～12:30 (第1会場 3F 多目的ホール)

※支部社員総会、支部評議員会について、一般会員の先生方はライブ配信で視聴できますが、議決権は有しません。

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第11条 各地方会に会長1名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第12条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年1回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第13条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年1回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第14条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年1回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第15条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第 16 条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヶ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第 17 条 各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部運営内規

平成 28 年 4 月 1 日施行

令和 2 年 8 月 23 日改定

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会支部規程を東北支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東北大学大学院医学系研究科循環器内科学内に設置する。

(支部長・副支部長)

第3条 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は理事就任開始日からとする。

2. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部長が本支部とは別の支部に異動した場合、支部長として退任となる。

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

2. 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長に事故あるとき、または支部長が別支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。

(支部役員)

第5条 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区7大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。

2. 任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。
3. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。

2. 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
3. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC担当幹事1名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。

2. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を

検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。

4. JCS-ITC 業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがいない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5. 支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第 8 条 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、支部役員 1 名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。

2. 候補者は、支部役員会予定日より 15 日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員 1 名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3. 支部評議委員会に正当な理由なく 3 回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4. 支部評議員の任期は 4 年とし再任は妨げない。
5. 支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6. 支部評議員の期中での辞職については、速やかに補充を行うこととし、支部役員会にて承認した上で、後日支部社員総会において追認する。なお任期は前任者を引継ぐこととする。

(地方会会長)

第 9 条 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。

2. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3. 地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6. 地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部名誉会員)

第 10 条 支部規程第 4 条 2 項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する

2. 支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢 65 歳以上（当日に 65 歳を迎える者を含む）の東北支部所属の会員であり、支部評議員を 3 期以上務めたものとする。

3. 支部名誉会員は、支部評議員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4. 支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5. 支部名誉会員は、永年資格とする。
6. 支部名誉会員の内、東北地方会で会長を務めた者、支部長を務めた者は、支部特別名誉会員と呼ぶ。処遇は支部名誉会員に準用する。

(支部社員総会、支部評議員会)

第 11 条 支部規程第 13 条に定める支部社員総会、支部規程第 14 条の支部評議員会は、同時開催することとする。

(支部事務局業務)

第 12 条 支部規程第 15 条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

(地方会)

第 13 条 支部規程第 16 条 1 項に定める地方会について、本支部は原則として毎年 2 回地方会を開催する。

2. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会東北地方会とする。
地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

(JCS-ITC 講習会)

第 14 条 支部規程第 17 条 1 項に定める JCS-ITC 講習会について、本支部は JCS-ITC 業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務（受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算等）を行う。なお、これらの事務業務について、円滑に業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

2. JCS-ITC 講習会の事務業務については JCS-ITC 講習会事務要領に定めることとする。

附則

- 1) この内規は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 地方会運営要領

平成 28 年 4 月 1 日施行

令和 3 年 6 月 5 日改定

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

（広報）

- 1 地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
- 2 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

（会計）

- 3 地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会・支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる
- 4 地方会参加費は、正会員 3,000 円、コメディカル 1,000 円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
- 5 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
- 6 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を 100 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
- 7 地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を 20 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
- 8 地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会 第〇〇回東北地方会 会長 〇〇〇〇」とする。
- 9 地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
- 10 地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
- 11 教育講演の招請者への待遇について、謝金上限は演者 100,000 円（源泉税抜）、座長 50,000 円（源泉税抜）、交通費は実費支給とし、地方会当日、直接本人へ現金もしくは振込対応する。これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
- 12 地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。

- 13 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
- 14 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込むこととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。
- 15 地方会の経費精算は、原則地方会終了後2か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
- 16 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

(会議)

- 17 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
- 18 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
- 19 地方会における華やかな懇親会の開催を禁じる。

(演題募集)

- 20 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の2カ月前とする。
- 21 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用ID及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
- 22 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

(専門医単位登録)

- 23 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVDセッション開催届」(DVDセッションを開催する場合に限る)を本会及び本支部へ提出しなければならない。
- 24 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録(地方会参加5単位、教育セッション参加3単位、DVDセッション参加2単位)を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
- 25 教育セッション及びDVDセッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。(例:セッション開始1時間(又は30分)前から終了30分前)
- 26 DVDセッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことのある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等でその旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

(プログラム・抄録)

- 27 プログラムは、本学会告（偶数月 25 日発行）への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物（チラシ等）があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行 1 か月前とする。
- 28 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
- 29 プログラム完成後、本支部へ 2 部、本会へ 5 部を送付すること。
- 30 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

（演題発表）

- 31 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
- 32 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award について
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA「症例発表部門」「研究発表部門」)を設ける。
 - 2) 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。

東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

② 対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題(ただし 1 科 1 演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

③ 選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

⑤ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

⑥ 賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は1名(賞金 5 万円と表彰状)。

⑦ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

33 日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD について

- 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設ける。
- 2) 東北地方会 学生・初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

各地方会開催日において学生・初期研修医の方(日循会員の有無は不問)。

東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

② 対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、1施設2題(ただし 1 科1演題)までの応募とする。

③ 選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

⑤ 賞

最優秀賞1名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。

⑥ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) 研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より 6 名と、大会長が選出する 6 名の選考委員(循環器専門医研修施設より選出)の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

(その他)

- 34 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。
- 35 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附則

- 1) この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会は AHA(アメリカ心臓協会)と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCS-ITC(国際トレーニングセンター)を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS(二次救命救急措置)の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第6条3にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。

ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CDと略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
採択通知、追受講者の代理登録（CDより指示があった場合）、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。規定日までに入金が確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討すること。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ）を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。（一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。）
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施錠出来る場所に必ず保管しなければならない。また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に変更しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書（レシート可）を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えしたのか、分かるように領収書に記載（メモ書き可）の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。
12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えしたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 業務担当幹事のメール承認を要する。
なお、JCS-ITC 業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。

14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金(交通費・宿泊費含む)・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。(謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。)
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. JCS-ITC 講習会運営専用口座で余剰金が 1000 万円を超えた場合、支部の JCS-ITC 講習会専用口座に資金を移行する。

附則

- ・この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- ・この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

平成 28 年 4 月 1 日施行

平成 30 年 6 月 2 日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA)を設ける。
2. 本会則は平成21年2月14日に開催される第147回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award(東北地方会 YIA) 演題応募要領

趣旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA)を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に1施設2題(ただし1科1演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞1名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA希望演題の内、一般病院の演題から1題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題がYIA最優秀賞または優秀賞に選出された場合はYIAを優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。
会長奨励賞は1名(賞金 5 万円と表彰状)。

締切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

日本循環器学会東北地方会学生・初期研修医 AWARD 会則

2019年12月1日施行

2021年6月5日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な研修医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会学生・初期研修医 AWARD」を設ける。
2. 本会則は2019年6月1日に開催される第168回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会学生・初期研修医 AWARD の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. 研修医 AWARD 選考委員会は会長校の准教授を選考委員長として、各県大学の循環器内科准教授／講師／助教より6名と、大会長が選出する6名の選考委員（循環器専門医研修施設より選出）の計12名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の准教授が交代で務めることとする。

日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD 演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD」を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において学生・初期研修医の方。
東北地方会において過去に学生・初期研修医 AWARD を受賞した者は、再応募はできない。

対象演題

筆頭演者である応募者が担当医として治療を行った症例報告もしくは重要な役割を果たした研究で、演題募集締切日までに他の学会で未発表かつ印刷公表されていない演題内容を対象とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、1施設2題(ただし1科1演題)までの応募とする。

選考方法

地方会演題募集時に学生・初期研修医 AWARD 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とするセッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される審査委員会において厳重な審査を行う。なお、希望演題数が5題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。学生・初期研修医 AWARD 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「学生・初期研修医 AWARD に応募する」にチェックを入れ応募する。

賞

最優秀賞1名(賞金10万円)および優秀賞若干名(賞金5万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。

締 切

一般演題締切日と同日とする。

一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第 174 回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査委員

(敬称略)

| 県 | 施設名 | 所 属 | 名 前 |
|-----|---------------|---------------|-------|
| 青 森 | 弘前大学大学院医学研究科 | 循環器腎臓内科学講座 | 富田 泰史 |
| 青 森 | つがる総合病院 | 循環器・呼吸器・腎臓内科 | 阿部 直樹 |
| 岩 手 | 岩手医科大学 | 内科学講座 循環器内科分野 | 森野 禎浩 |
| 岩 手 | 岩手県立二戸病院 | 循環器内科 | 西山 理 |
| 秋 田 | 秋田大学大学院医学系研究科 | 循環器内科学講座 | 渡邊 博之 |
| 秋 田 | 市立秋田総合病院 | 循環器内科 | 阿部 芳久 |
| 山 形 | 山形大学医学部 | 内科学第一講座 | 渡辺 昌文 |
| 山 形 | 山形県立中央病院 | 循環器内科 | 松井 幹之 |
| 宮 城 | 東北医科薬科大学 | 内科学第一 (循環器内科) | 小丸 達也 |
| 宮 城 | 仙台オープン病院 | 循環器内科学 | 浪打 成人 |
| 福 島 | 福島県立医科大学 | 循環器内科学講座 | 竹石 恭知 |
| 福 島 | 大原総合病院 | 循環器内科 | 齋藤 修一 |

第 174 回日本循環器学会東北地方会 学生・初期研修医 AWARD 審査委員

(敬称略)

| 県 | 施設名 | 所 属 | 名 前 |
|-----|---------------|----------------|-------|
| 青 森 | 弘前大学大学院医学研究科 | 循環器腎臓内科学講座 | 佐々木真吾 |
| 青 森 | 青森県立中央病院 | 循環器内科 | 櫛引 基 |
| 岩 手 | 岩手医科大学 | 医学教育学講座地域医療学分野 | 伊藤 智範 |
| 岩 手 | 岩手県立胆沢病院 | 循環器内科 | 八木 卓也 |
| 秋 田 | 秋田大学大学院医学系研究科 | 医学教育学講座 | 長谷川仁志 |
| 秋 田 | 秋田厚生医療センター | 循環器内科 | 松岡 悟 |
| 山 形 | 山形大学 医学部 | 内科学第一講座 | 渡邊 哲 |
| 山 形 | 山形市立病院済生館 | 循環器内科 | 宮脇 洋 |
| 宮 城 | 東北医科薬科大学 | 内科学第一 (循環器内科) | 熊谷 浩司 |
| 宮 城 | 仙台医療センター | 循環器内科 | 篠崎 毅 |
| 福 島 | 福島県立医科大学 | 循環器内科学講座 | 八巻 尚洋 |
| 福 島 | 白河厚生総合病院 | 循環器内科 | 齋藤 富善 |

日本循環器学会東北支部役員 (令和4年4月現在)

| | | | | |
|-----------|------------------------------|--------------------|--------|--------|
| 支 部 長 | 竹石 恭知 | | | |
| 副 支 部 長 | 森野 禎浩 | | | |
| 理 事 | 竹石 恭知 | | | |
| | 森野 禎浩 | | | |
| 支 部 役 員 | 竹石 恭知 (福島県立医科大学) | 森野 禎浩 (岩手医科大学) | | |
| | 富田 泰史 (弘前大学) | 金 一 (岩手医科大学) | | |
| | 渡邊 博之 (秋田大学) | 飯野 貴子 (きびら内科クリニック) | | |
| | 齋木 佳克 (東北大学) | 堀内 久徳 (東北大学) | | |
| | 安田 聡 (東北大学) | 小丸 達也 (東北医科薬科大学) | | |
| | 富岡 智子 (みやぎ県南中核病院) | 渡辺 昌文 (山形大学) | | |
| 名譽特別会員 | 伊藤 宏 | 白土 邦男 | 平 則夫 | 中村 元行 |
| 名譽支部員 | 丸山 幸夫 | 久保田 功 | 下川 宏明 | |
| | 青木 孝直 | 芦川 紘一 | 池田 精宏 | 石出 信正 |
| | 石橋 敏幸 | 伊藤 貞嘉 | 猪岡 英二 | 今井 潤 |
| | 大和田憲司 | 岡林 均 | 小熊 正樹 | 長内 智宏 |
| | 小野 幸彦 | 加賀谷 豊 | 門脇 謙 | 金澤 正晴 |
| | 金塚 完 | 木島 幹博 | 小岩 喜郎 | 上月 正博 |
| | 後藤 敏和 | 小林 政雄 | 齋藤 公男 | 齊藤 崇 |
| | 佐々木 弥 | 貞弘 光章 | 佐藤 昇一 | 佐藤 匡也 |
| | 瀨川 郁夫 | 高松 滋 | 立木 楷 | 田中 元直 |
| | 田巻 健治 | 田村 芳一 | 野崎 英二 | 福田 幾夫 |
| | 藤野 安弘 | 前原 和平 | 三国谷 淳 | 室井 秀一 |
| | 元村 成 | 盛 英機 | 保嶋 実 | 柳澤 輝行 |
| | 山本 文雄 | 渡辺 毅 | | |
| 支 部 評 議 員 | 各県ごと五十音順、○印は社員 (旧：全国評議員) | | | |
| 青 森 | 阿部 直樹 | 木村 正臣 | 櫛引 基 | ○佐々木真吾 |
| | 齋藤 新 | 大徳 和之 | ○富田 泰史 | 萩井 讓士 |
| | 花田 裕之 | 松井 宏光 | 皆川 正仁 | 森 康宏 |
| | 横田 貴志 | 横山 公章 | | |
| 岩 手 | 石田 大 | ○伊藤 智範 | 遠藤 秀晃 | 大和田真玄 |
| | ○金 一 | 木村 琢巳 | 熊谷亜希子 | 小松 隆 |
| | 高橋 智弘 | 田代 敦 | 中村 明浩 | 西山 理 |
| | 房崎 哲也 | 三浦 正暢 | ○森野 禎浩 | 八木 卓哉 |
| 秋 田 | ○阿部 芳久 | 飯野 健二 | ○飯野 貴子 | 小坂 俊光 |
| | 佐藤 誠 | 鈴木 智人 | 鈴木 泰 | 武田 智 |
| | 寺田 健 | 照井 元 | 豊野 学朋 | 長谷川仁志 |
| | 藤原 敏弥 | 堀口 聡 | 松岡 悟 | ○渡邊 博之 |
| 山 形 | 有本 貴範 | 池田こずえ | 池野栄一郎 | 内田 徹郎 |
| | 金谷 透 | 佐藤 匡 | 穴戸 哲郎 | 菅原 重生 |
| | 須藤 直行 | 高橋 大 | 新関 武史 | 西山 悟史 |
| | 野崎 直樹 | 廣野 撰 | 福井 昭男 | 松井 幹之 |
| | 宮本 卓也 | 宮脇 洋 | ○渡邊 哲 | ○渡辺 昌文 |
| 宮 城 | 伊藤 健太 | 岩渕 薫 | 大原 貴裕 | 川本 俊輔 |
| | 菊地 翼 | 熊谷 浩司 | ○小丸 達也 | ○齋木 佳克 |
| | 西條 芳文 | 佐藤 公雄 | 篠崎 毅 | 白戸 崇 |
| | 高橋 潤 | 高濱 博幸 | 建部 俊介 | ○富岡 智子 |
| | 中野 誠 | 野田 崇 | 後岡広太郎 | ○羽尾 清貴 |
| | ○堀内 久徳 | 矢尾板信裕 | ○安田 聡 | 山本 沙織 |
| 福 島 | 山家 智之 | | | |
| | 石田 隆史 | 大和田尊之 | 金城 貴士 | 國井 浩行 |
| | 小松 宣夫 | 齋藤 修一 | 斎藤 富善 | 杉 正文 |
| | 杉本 浩一 | ○竹石 恭知 | 武田 寛人 | ○中里 和彦 |
| | 八巻 尚洋 | 横山 斉 | 義久 精臣 | |
| 会 計 監 事 | 那須 雅孝 | 前原 和平 | | |
| 幹 事 | 支部事務局担当幹事：高橋 潤 (東北大学) | | | |
| | JCS-ITC 講習会担当幹事：花田 裕之 (弘前大学) | | | |

日本循環器学会東北支部

各種委員会 委員名簿 (令和4年4月現在)

* 委員長

ダイバーシティ推進委員 (旧 男女共同参画委員)

| | | | |
|--------------|------------|------------|------------|
| * 西崎 史恵 (青森) | 相馬 宇伸 (青森) | 小島 香 (岩手) | 那須 崇人 (岩手) |
| 岩川 英弘 (秋田) | 梅田 有理 (秋田) | 有本 貴範 (山形) | 渡部 賢 (山形) |
| 齋藤 悠司 (山形) | 富岡 智子 (宮城) | 西宮 健介 (宮城) | 佐藤 遥 (宮城) |
| 肱岡奈保子 (福島) | 喜古 崇豊 (福島) | | |

オブザーバー

| | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 熊谷亜希子 (岩手) | 八木 卓也 (岩手) | 後岡広太郎 (宮城) | 杉 正文 (福島) |
|------------|------------|------------|-----------|

心肺蘇生法普及委員

| | | | |
|------------|------------|--------------|------------|
| 花田 裕之 (青森) | 西崎 史恵 (青森) | 鈴木 智人 (秋田) | 深堀 耕平 (秋田) |
| 及川 浩平 (岩手) | 照井 克俊 (岩手) | 金谷 透 (山形) | 宮本 卓也 (山形) |
| 篠崎 毅 (宮城) | 須田 彬 (宮城) | * 竹石 恭知 (福島) | 水上 浩行 (福島) |
| 阿部 諭史 (福島) | | | |

成人先天性心疾患部会委員

| | | | |
|--------------|------------|------------|------------|
| 大徳 和之 (青森) | 大谷 勝記 (青森) | 金城 貴彦 (青森) | 高木 大地 (秋田) |
| 豊野 学朋 (秋田) | 寺田 健 (秋田) | 小泉 淳一 (岩手) | 齋木 宏文 (岩手) |
| 上田 寛修 (岩手) | 水本 雅弘 (山形) | 安孫子雅之 (山形) | 西山 悟史 (山形) |
| * 齋木 佳克 (宮城) | 帯刀 英樹 (宮城) | 多田 憲生 (宮城) | 建部 俊介 (宮城) |
| 若松 大樹 (福島) | 桃井 伸緒 (福島) | 及川 雅啓 (福島) | |